

2025年  春号

一般社団法人
群馬県医療ソーシャルワーカー協会

ぬくもり群馬

MENU

P2 会長挨拶

P3 リレーフォーライフ

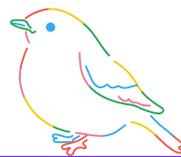
P4 新人研修

P5 フレッシュマンレポート

P6 委員会紹介

P7 東毛ブロック会

P8 編集後記



▼ 一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会 会長 狩野 寛子

関係機関の皆さまには、平素より当協会の運営にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

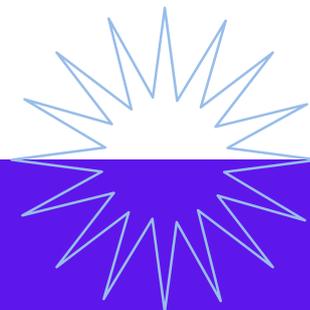
2024年度は、コロナ禍以降5年ぶりの対面による総会や研修の再開、能登半島地震へのぐんまDWATと日本医療ソーシャルワーカー協会支援活動への協力、群馬県社会福祉士会、群馬県精神保健福祉士会とともに群馬県ソーシャルワーカー連盟としてのソーシャルワーカーデーの開催などを行ってきました。

災害支援に関しては、今までの群馬県災害福祉派遣チーム（ぐんまDWAT）のほかに、弁護士会、司法書士会等県内13の士業団体との「災害時の被災者等支援のための各士業団体相互協力に関する協定書」を締結いたしました。保健医療福祉だけでなく、専門職の方々との連携が、日々の業務や支援にもつながっていくことを期待しております。

現在、当協会は、本年8月30日に県社会福祉総合センターで60周年記念大会を開催するために、実行委員会一同で準備中です。大会では、「医療ソーシャルワークの歩みを未来へつなぐ」をテーマに、当協会と医療ソーシャルワーカーの歴史を振り返り、現在、将来、社会に求められるソーシャルワーカーとして何をすべきか、どうあるべきかを考える場とします。体験企画、講演、懇親会のほかに、当協会では初めての「群馬県医療ソーシャルワーク学会」も計画しています。会員の実践や研究を発表し、ソーシャルワーカー同士がお互いに交流し研鑽し合えること、そして関係者の方にも我々の取り組みを知っていただく機会となることを目指しています。会員外の方もぜひご参加いただけますようご案内申し上げます。

保健、医療の場面で権利が守られていない方、何らかの理由でパワーレスとなっている、福祉が必要な方、地域、社会作りのために私たちソーシャルワーカーが果たすべき役割を再確認、共有したいと思っています。

今後とも、当協会の活動に、ご理解、ご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。





2024
10.12
-10.13

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024ぐんま 参加報告

2024年10月12日～13日、当県で12回目の開催となる「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024ぐんま」が群馬県ALSOKぐんま総合スポーツセンターふれあいグラウンドで開催されました。今回の参加チームは73。当協会は計8回目、昨年に引き続き2年連続での参加となりました。

リレー・フォー・ライフとはがん患者さんや家族、その支援者が公園やグラウンドを会場に、交代で24時間にわたってがん制圧への願いを込め、絆を深め合う応援イベントです。当協会では、リレー・フォー・ライフ・ジャパンの趣旨に賛同し、サバイバーやそのご家族、また各職能団体や保険医療機関の方々にソーシャルワーカーと当協会を周知して、日々の生活の中で相談出来る窓口があることを知ってもらおうと第1回より参加しています。

10名の実行委員が中心となって計画し、今年もリレーウォークに参加・募金活動を行いました。当初は実行委員含む24名の参加予定でしたが、当日は天候にも恵まれ、両日とも清々しい秋晴れのもと、24名以上の会員の皆様にご参加下さいました。ご参加出来ない方も募金という形でご協力いただきました。今回は事前に当協会のグッズを作成しなかった事もあり、ご参加いただいた方々には各自過去のグッズを準備し身に付けていただきました。その中には近年作成したグッズだけでなく、歴史を感じるグッズを身に付けている方もおり、それだけでも当協会としてのリレー・フォー・ライフへの関わりの深さを実感しました。

「がん」という病気に対して、私達がソーシャルワーカーとしての視点から患者様やご家族様への支援へと繋げていける様、今後も当協会としても参加を継続できればと思います。

最後に、リレー・フォー・ライフ参加にあたり
ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

公益社団法人群馬県医師会群馬リハビリテーション病院
地域連携室 原田航輝



フレッシュマンレポート

群馬リハビリテーション病院 地域連携室 飯塚 佑輔

通年で新人研修を受講し、医療ソーシャルワーカーとして必要な知識や技術等について、学びを深めることができました。

具体的には、コミュニケーション、アセスメント等の実践的な技術も講義に加え、事例検討やグループワークを通して知識を高めることができました。事例検討の講義では、同期の医療ソーシャルワーカーの患者支援での事例を通して、退院支援をするだけでなく、患者さんやご家族の背景を理解しながらサポートをしていくことが求められていると学ぶことができ、グループワークでは、同期の医療ソーシャルワーカーと交流を図ることで、新たな視点や考え方を得ることができました。

また、様々な講義での学びを通して、これまでの自分自身の患者さんやご家族への支援についても見つめ直すことができる有意義な時間となりました。

医療ソーシャルワーカーとして悩み立ち止まった時には、研修での学びに立ち返り、今後の支援へと繋げていきたいと思えます。

今回、同期の方々と顔を合わせての研修を受けることができたことも嬉しく思います。講師の皆様、企画して下さった研修委員会の皆様、お忙しい中ありがとうございました。新人研修での経験を今後の業務への糧としていきたいと思えます。



告知

研修企画委員会では、来年度より新人研修を新しいシラバスで学べるようシラバス改定について協議しております。日本医療ソーシャルワーカー協会の基幹研修Ⅰに向けてステップアップできるような内容を考えております。また、集合研修の強みである“横のつながり”を作ることも大事にしながら開催していきたいと思えますので、来年度もたくさんの新人さんのご参加をお待ちしております。





委員会紹介 人権擁護身元保証委員会

高崎中央病院 富岡真理子

当委員会は、2020年度に身寄りが無い患者さんへの支援が増えるなかで、身寄りが無い方の人権が軽んじられていないだろうかという問題意識から新設された委員会です。

現在の日本の社会においては、身寄りのない方が日常生活で起きるさまざまな生活問題に直面した時、誰にも生活支援、金銭管理、身元保証、死後事務などのサポートを頼めないということで、その方の人権に配慮した対応がとて難くなる場面があります。また、その困難を解決するための手段として、ソーシャルワーカーが身元保証団体などを利用したりすることがありますが、そのことが人権保障、クライアントに対する倫理的責任との関係でどのような意味を持つのか、当協会の会員みなさんと共に考えていく必要があると考えました。単に「身元保証検討委員会」ではなく、「人権擁護」という言葉を冠しているのには、そんな理由があるのです。

これまでの活動としては、組織としての身元保証の考えや身元保証サービス事業者利用の背景等の現状把握のためのアンケート調査（2020年度）、ソーシャルワーカーデイ「身元保証問題について～誰でも安心した生活を送れるために」（2021年度）、オンライン研修「身寄りのない方の支援について考える～身寄りなし問題研究会の活動から学ぶ」、多職種実践交流会「身寄りのない人への支援～地域でのネットワーク構築を目指して～」の開催の他、委員会内で事例報告を行ってきました。



2025年3月6日（木）18時～、テーマ「高齢者等終身サポート事業者ガイドラインの要点と身寄りのない人の支援に与える影響等について」で研修会を開催予定です。講師には、弁護士事務所龍馬 板橋俊幸氏をお招きしています。また、開催にあたり、会員の身元保証団体の利用状況を把握するためのアンケートを実施しています。板橋先生には、ソーシャルワーカーデイで講演いただいておりますが、その際触れられていた「身元保証団体利用の注意点」、①当該団体の利用の妥当性、②本人からの利用依頼の有無、③利用を勧める者が誰と誰の契約であるかを理解しているか、④病院や施設が求める身元保証人の責任を果たせるのか、⑤トラブルが発生したら誰が責任を取るのか、⑥他の代替え案を検討したうえで最終手段として提案しているかといった部分に焦点を当ててご講演いただくことをお願いしています。

今回は参加対象を会員内の理解、受け止めを整理する目的で会員に限定していますが、今後は更に、群馬県社会福祉士会と群馬県精神保健福祉士会ともこの問題について考えていく機会を作っていきたいと考えています。

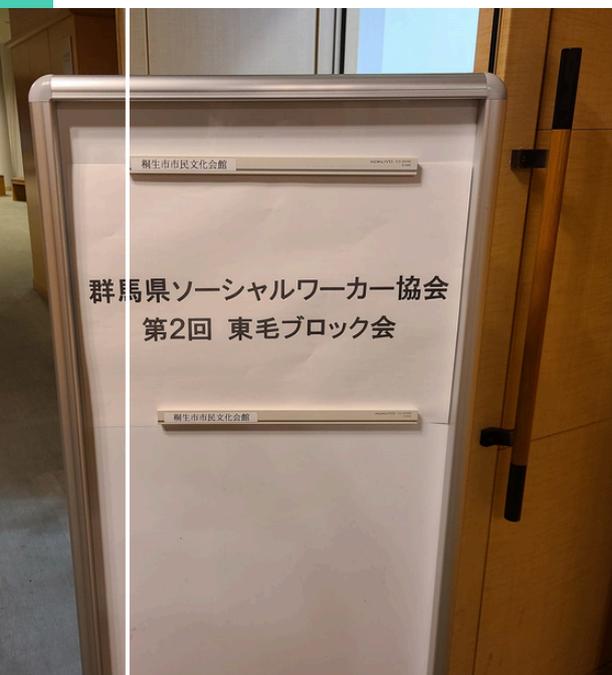
東毛ブロック会

慶友整形外科病院 東毛ブロック長 小川琢人

11月21日(木) 美善仁桐生文化会館第一会議研修室にて、『桐生市における生活保護費支給問題の実態』と題し反貧困ネットワーク群馬町田茂先生をお招きしてご講演をいただきました。今回は総勢約40名の参加者が県内から集い、この人数の多さからも本件の関心の高さがうかがえました。桐生市の生活保護行政の不正運用については全国的にも話題となった社会問題です。

今回の講演では報道にもあるような生活保護費の分割支給の問題、徹底した水際作戦や硫黄島作戦の常態化の問題などの他、報道こそされていませんが、驚くような実態の話を知ることができました。その内容は信じがたい人権侵害や違法性を疑う制度運用の実態が語られ、私自身も聴講しつつ自分の耳を疑ってしまうような数々でした。予定していた時間を超過してしまうほど有意義なブロック会となり、参加者と町田先生の間でも支援者同士の実体験に基づいた活発な意見交換が行われました。最後には町田先生からは当協会員からの情報提供の依頼と共に、有事の際には相談とご協力をいただけるとのお声掛けを頂け、大変心強い限りでした。

福祉の手を必要としている方に適切な制度利用や社会資源活用が図られないことは本来あってはならず、私たちソーシャルワーカーの活躍が期待されるどころかと思いません。何事にも同様ですが、現状や課題が明らかになれば、解決の手段を見出すことは難しいかと思えます。私たちソーシャルワーカーはソーシャルワーク専門職として高い倫理観と意識をもち、ソーシャルワーク支援を考え続けていかなければならないと考えます。本研修を始め、次年度も各ブロックで多くの研修を企画されます。研修の企画運営を通して皆さんの研鑽の一助となれば幸いと存じます。



桐生市生活保護問題について

2024.11.21(木) 反貧困ネットワークぐんま 町田茂



識者「適切か監査

桐生市 高い取

生活保護受給

令和7年3月11日発行
編集発行：広報委員会

編集後記

「ぬくもり群馬2025年春号」をご覧頂きありがとうございます。
今年度はこども家庭ソーシャルワーカー認定資格が創設されました。こどもや家庭を取り巻く環境が複雑化する中、来年度からは「2025年問題」として医療・介護の負担が増加していくことが予想されています。

社会の広い領域において人手不足や社会保障制度の持続可能性が問われており、私たち一人ひとりがどのように関わっていくべきか、考えさせられる機会が増える1年になるかもしれません。

これからも、社会の動きに目を向けながら、皆様とともに未来を考える広報誌をお届けできればと思います。

次号もお楽しみに！

SNS

ホームページ

<https://mswgunma.or.jp>

Facebook

<https://www.facebook.com/gmswa/>



広報委員会

原島	歩志 (老年病研究所附属病院)
長野	明日香 (高崎総合医療センター)
星野	裕一 (鶴谷病院)
小淵	匡 (沼田病院)
小川	貴之 (桐生市医師会)
長峰	雅史 (前橋赤十字病院)

一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会

事務局 〒377-0007

群馬県渋川市石原2404-37(おがた社会福祉士事務所内)

Tel:080-2308-1599 Fax:0279-51-988